

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		いろは2児童通所支援（児童発達支援）				公表日	R7年 2月 21日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4		職員は全体が見える位置取りを意識して見守りを行っています。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4		人員配置基準を満たす人員配置を行っています。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4		学習、工作、遊び等の活動に応じて構造化されています。また、バリアフリー化されており、スケジュールカードや表示カード等により視覚的に情報を受け取り易くしています。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4		毎日のお掃除と支援前のおもちゃの除菌を行っています。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4		クールダウンをするスペースや休憩スペースが用意されています。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4		計画書・報告書において明確な目標設定と振り返りを毎回行い、職員全体で確認しています。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		業務改善に向けての会議を行い、保護者様の意向等を把握し、改善の取り組みを進めています。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		職員ミーティングで意見交換を行い、検討し必要であれば改善しています。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		4	現在はアンケート調査の結果等の評価に対して業務改善できるように努めています。	第三者評価の実施については今後の検討課題とさせていただきます。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4		ZOOMを使っての外部研修やオンデマンドでの研修など研修を受ける機会を確保しています。		
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4		支援プログラムが作成、公表されている。ホームページへもアップされました。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	4		期間内に面談を行い、こどもと保護者のニーズや課題を聞き取り分析し、サービス計画書を作成しています。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4		こどもの支援に関わる職員全員で会議を行い共有したうえで、計画書が作成されています。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4		支援計画が出来たら、全員に回覧され内容の確認をしてから支援が行われています。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4		外部機関で実施された検査結果等でも発達の状況を確認し、支援の参考にさせていただきながら、日々の活動については利用日毎に評価を記入し記録に残しています。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4		児童発達支援ガイドラインに沿って設定しています。		

援 の 提 供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4		月に1度プログラム会議を行い職員全員で決めています。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4		年間プログラム表にて、行った内容等を把握し固定化しないようにプログラム計画を立てるように工夫しています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	4		個別の時間にすると、集団活動（プログラム）をする事とを分けて支援を行っています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4		必ず朝の会で一日の流れ（送迎・来所時間・個別療育・集団プログラム等）を確認し、役割分担を決めています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4		支援後、終わりの会で当日の支援における評価を行い、情報共有しながら改善が必要な時は対応を決めています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4		支援後、毎日一人ひとりの評価を行い記録に残しています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4		定期的にモニタリングを行い、必要であれば計画の見直しをするように努めています。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4		こどもの状況を理解したうえで会議に参加させていただくようにしています。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4		関係機関との連携自体は多くはありませんが常に連携がとれる体制でいます。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4		幼稚園、保育所、こども園等との平行利用に向けては、利用時間の調整を行い、必要であれば支援者会議、電話等により支援の内容の共有を図っています。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4		関係機関との連携自体は多くはありませんが常に連携がとれる体制でいます。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)				
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	4		地域の児童発達支援センターとの連携はありますが、スーパーバイズや助言は受ける機会が設けられていないのが現状です。	研修の機会を作るなどスーパーバイズや助言を受けられるような機会を設けていけたらと思います。
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	4		地域の公園遊びや児童施設等の利用により地域の他のこどもと活動する機会を作っています。	活動時間等の難しさはありますが、要望があれば今後交流の機会を検討していきたいと思っています。	
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4		連絡帳や送迎時の会話等において日々状況の変化を確認していくようにしています。		
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4		保護者会のご案内と同時に機会を作ってご参加を呼びかけさせていただいています。		
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4		ご契約時、変更時において説明をさせていただいています。		

保護者への説明等	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4		期間内に保護者面談をさせていただき、ご意見等をお聞きした上で支援の内容と一緒に考えさせていただいています。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	4		丁寧な説明を心掛けています。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4		出来る限り、タイムリーにご相談にお応えできるよう、必要に応じて電話や面談を行っています。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4		保護者会を行い、交流の機会を作ってお参加を呼びかけさせていただいていますが、きょうだい同士交流出来るような機会は作れていません。	ご家族、きょうだい同士の交流の機会は今後の課題です。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4		子どもや保護者からの相談や申入れについて、連絡帳、SNS等のご利用も含め体制を整え、いつでも対応できるようにしています。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	4		毎月お便りを発行し、活動の内容や様子をお伝えしています。またプログラム予定表を毎月お渡しし、予定のおしらせをしています。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4		個人名が入ったものはすべてシュレッターするか名前を消してから破棄する等の配慮をしています。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4		言葉だけではなくコミュニケーションカード（ヘルプカード）やスケジュールカード等を利用しながらスムーズなやり取りが出来るようにしています。	
非常時等の対応	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		4		現在のところ地域住民の方を招いての催し物は考えておらず今後の課題です。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4		マニュアルは策定されており、職員室に常時備えられています。年間通しての研修で確認、訓練を行っています。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4		業務継続計画（BCP）の策定はされており、必要な会議・研修・訓練を行っています。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	4		健康調査票、口頭などにて利用開始までに確認させていただいています。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4		現在、医師の指示書が出されている子どもはいない状況です。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4		安全計画を作成し、年間の予定に合わせ必要な研修・訓練や点検、確認を行っています。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4		保護者会にてご説明させていただき、情報の共有をさせていただきます。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4		ヒヤリハット、事故報告等において事業所内では即日事例検討し再発防止に向けた方策を検討するようにしています。	
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4		外部研修の資料や動画を使つての研修等研修計画に入れ適切な対応ができるようにしています。		
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	4		基本的に「身体拘束0」の事業所として現在のところ拘束の例はありませんが、どのような時に行うかは決まっています。		